

漢法苞徳塾資料	No. 026
区分	治療・臨床
タイトル	漢法医学的にみたカゼについて (カゼと一口に言いましても：改題)
著者	八木素萌
作成日	1998.05 修訂

◇現代医学では「上気道感染症」とされ「かぜ症候群」と呼ばれる場合もあるが、これを漢法医学の目で見ると、傷寒・中風・傷風・温病・風温（＝中湿）・瘧病・感冒、などに区分されている。更にそれぞれにはバリエーションが認識されている。

漢法医学による治療は、身体の調和を図ることによって抵抗力を極力高陽させて治癒に導こうとするものである。強力な治療力を発揮させるためには、患者の微細な症状をも見逃さないようにして、身体の不調和を極力精密に診定しなければならない。上記の諸病の症候的な特徴を略記しておこう。

傷寒：発熱し悪寒し汗なく体痛み、時に嘔逆することもある。脈は浮緊の脈。

中風：発熱し、汗ばみやすく、悪風する。脈は緩脈。

傷風：無熱もしくは微熱で、ハナ汁出、またハナ詰まりし、咳嗽し頭痛する。

温病：発熱し、口渇し、汗が出易く、悪寒シナイ。

春温・暑温・秋燥・冬温・風温・湿温などがある。

風温：[中湿とも言う] 発熱し、微かに口渇し、悪風寒し、咳嗽する。

汗出（自汗）、身体を重く感じ、関節痛がある。甚だしいときは屈伸が不自由になる。

瘧病：発熱し、悪寒し、項強ばり、口が強ばる。筋の引きつれや瘧攣を起こしやすい。

剛瘧と柔瘧がある。

[剛瘧…発熱・悪寒・無汗

柔瘧…発熱・汗出（＝自汗）・悪寒せず]

感冒：発熱・悪寒・喉痛・咳嗽・鼻水・頭痛・身痛など。

暑温：壮熱・口渇のために多飲となり、多汗する。

[陽明の経病・腑病の場合も熱盛となり、壮熱・多飲・多汗であるが、
この場合には二便不利となる。]

湿温：熱の籠もる感じが強く、体重節痛（＝体重嗜臥）し胸や上腹などに痞塞を感じ、嘔き気・小便の濁り・ベタベタの軟便、などのような消化器系の症状を伴う。

燥温：[秋燥ともいう] 温病の一般的な症状に加えて、口・鼻・咽喉に乾燥感が強い。